

ふりがな 氏名	たかの ひろゆき	都道府県	福島県	
	<b>高野 寛之</b>			
所属/肩書	<b>福島県立福島高等学校／教諭</b>			
私の ESD活動	<b>東日本大震災からの復興のための、SSH 事業を中心とした未来の復興を担う人材育成</b>			

#### 活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

福島県立福島高校では、Future From Fukushima「ふくしまから始めよう」という福島県のスローガンをもとに、福島を復興する未来の担い手の人材育成に力を入れています。東日本大震災および原発事故により県外へ流出する人口、特に若年層の流出が顕著となっている福島県では、復興の担い手となる若年層の育成が急務となっています。このような状況の中で、福島県を代表する福島高校では、平成 19 年より文部科学省に指定された SSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業を中心として、福島高校だけでなく県内の主要高校との連携により主に中高生の理数系教育に力を入れています。持続可能な開発のためには、まずは将来の担い手となる生徒の意識を社会に向けていくことが第一と考え、ESD(持続可能な開発のための教育)の一環として、理数系教育を中心とした様々な教育活動を行っています。

まずは、SSH 事業の一環として FSC(ふくしまサイエンススクールコミュニティ)を立ち上げ、県内の協力校と連携して福島復興人材の育成にあたっています。各校が日頃の研究内容を発表し合ったり、大学教授の講演を聞いたり、理数系の内容についての勉強会・講習会を開いたりしています。また、未来の医療を支える医療従事者を増やすために、福島県立医大などと連携して医療の現場を体験させるなどのセミナーを開いています。また積極的に海外連携を進め、台湾・韓国・イギリス・フランスなどの高校生との交流の中で、プレゼンテーションなどの発表を通じて福島の現状を世界にアピールしています。

以上のような活動を通じて、次の世代を担う若い人々が社会に積極的に関わり復興への課題に取り組むことで、社会にフレッシュな刺激を与え、明るい今後の未来・見通しを見せることで人々の希望を取り戻し、社会全体に好循環が生まれるような活動を目指しています。

・福島県立福島高等学校：<http://www.fukushima-h.fks.ed.jp/>

#### 今後のESDの発展のために、若者はどのような役割を担えますか？

若者は、利害関係や既成の枠にとらわれない視点を持っている。様々な国や地域の人々と交流し、人類が直面する多くの課題について深く考え新たな知見・視点・知恵を獲得し、それを共有することで自らの社会への意識を高め、それを様々な場面で発信する。そうすることで、利害関係や既成の枠のないところで地球規模・人類的規模の課題を人間らしい素直な目で受け止めることができる若者だからこそ、周囲の人は耳を傾け、様々な人の意識を変えることのできる可能性が大いにある。

また、若い世代だからこそ、さらに若い世代とのつながりを持ちその影響力が強く、様々な知見・視点・知恵を次の世代に好循環させるのに大きな役割を担っているといえる。若い世代からさらに若い世代へと伝達し、早い段階から意識を高めていくことで、成熟して実社会を動かす立場になったときにしっかりと目的意識を持った行動ができようになる。